

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	マジョリティ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	△RG	0.035	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：マジョリティ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：パープル・レンジャー

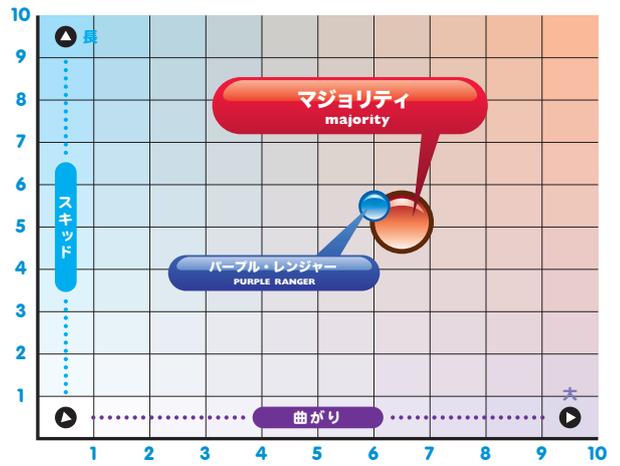
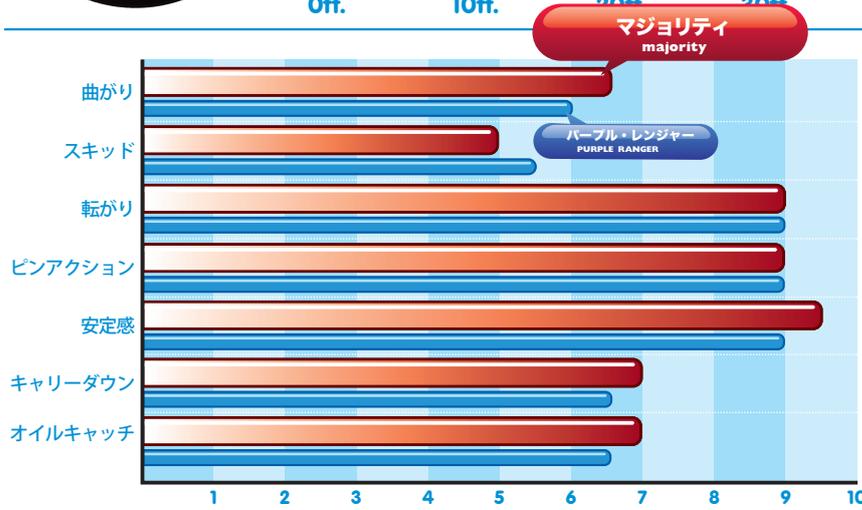
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ABSはPro-amモデルとして2本の柱を設け、ミディアムヘビー領域のINVADERとミディアムライト領域のRANGERを作り上げてきました。INVADERは次世代モデルとしてEMPERORを輩出し、新たなパフォーマンスを打ち出しています。今回のMAJORITYはRANGERのフルモデルチェンジで、コアもカバーストックも一新して発売致します。MAJORITYはRANGERシリーズの後継として、ミディアムからミディアムライト領域を主として開発され、前作までのRANGERシリーズと比べるとややキャッチは強まっていて、カバーストックはアップグレードされているイメージがあります。比較投球はPurple RANGERと行いましたが、コアの変更に伴いMAJORITYのほうが早めにネジレに入っているのが投球すると体感できます。かといってガッツリ曲がるという印象よりは、INVADERやEMPERORの次にバックから出すセカンドボールの位置づけです。私がこのMAJORITYを投げて驚いたのは、走りが優先されている領域のボールですが、曲がり具合といい入射角の出方といい、ミッドプライス領域ではなかなか感じることができない走りの領域にもパフォーマンスがしっかり出ているところです。これぐらいのパフォーマンスはおいそれとできるものではなく、コアの設定とカバーストックのマッチングを行わないとでない性能です。この決定版の性能領域だからこそ”MAJORITY”(大多数)のネーミングにされたこと。またテストングしたプロの評価が高く、発売前から注目が集まっているのも気になるところでしょう。このMAJORITYはパールを基調としたカバーストックですが、コンセプトはバックエンドのリアクションとアンギュラーな曲がり形態です。そのためパールをブレンドした”アグレッシブ”を重視した仕様です。走りとキャッチのバランスが良く、この領域では贅沢なつくりともいえるでしょう。

特記事項

ミディアムなベンチマークボールを開発しながらも、カバーストックにしっかりとパフォーマンスを入れ込み、ドライエリアでのグリップを強めています。曲がりやすいコンディションでより効果を発揮する仕様になっています。